



題字・天野貞祐

主な内容

大先輩たちの「獨協愛」に感動	木原正義	(1)
令和4年度 通常総会 報告		(2)
令和4年度 総会前特別講演会 報告	鈴木荘太郎	(3)
母校で活躍する同窓生 淀縄哲之さん		(4)
連載 ドイツ 留学記②	都築 修	(6)
獨協祭に参加しました		(8)
獨協ぶらり旅		(10)
同窓生の書籍 新井孝重さん		(12)
クラス会・OB会だより		(13)
私の近況		(16)
編集後記		(20)

第99号

令和4年12月15日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 木原正義



<https://www.dokkyo-mejiro.com>

<https://www.facebook.com/groups/297418860299984/>

大先輩たちの「獨協愛」に感動

会長 木原正義 (昭和47年卒)

好天に恵まれた9月25日、3年ぶりに校内で獨協祭が開催されました。新型コロナウイルス感染予防のため入場者は事前予約制となりましたが、それでもたくさんの来訪者と生徒たちのイキイキとした姿を久々に見ることができました。同窓会も例年のごとくブースを設け、展示と来訪者の記念撮影を行いました(詳細は8ページ参照)。

新型コロナウイルスの影響は3年余を経過した今なお継続していますが、6月18日通常総会が小講堂において対面で開催され、令和3年度の事業報告、決算報告、そして令和4年度の事業計画、予算案等、すべて異議なく承認されました。また総会前の講演会では元同窓会会長の鈴木荘太郎先生に「胃を診て半世紀」という演題で内視鏡の歴史やご自身の経験談をとってもわかり易く講演していただきました。残念ながら総会後の懇親会は感染状況を考慮して中止とさせていただきますが、賛同幹事による臨時幹事会を開催し、忌憚のない意見交換を行いました。更に、上田校長が就任されてから初めての学校側との交流会を行い、校長はじめ校務の中心となる先生方(坂東教頭、大山副教頭、松本生活部長、齊藤進路指導部長、一般教員の中から同窓生の塩瀬先生、古池先生、宇津木先生)と、瀬戸事務長、淀縄総務課長、藤崎主任にご列席いただき、



臨時幹事会を開催しました

楽しい語らいの時間を過ごすことができました。

同窓生を代表して本誌97号でもご紹介致しました昭和20年-5卒黒沼昭夫さん、昭和24年卒宮田和夫さんにそれぞれご挨拶をいただきましたが、戦中戦後を生き抜いた二人の大先輩の「獨協愛」に満ち溢れたお話を伺い、参加者一同大変感動致しました。

さて、年末年始にかけインフルエンザの流行と新型コロナウイルス感染症の第8波の到来が囁かれています。まだまだ先は不透明ですが、これからも役員一同「獨協愛」をもって同窓会活動を行っていく所存です。

最後になりましたが、昭和39年卒で現監事の柳原克忠さんが9月にご逝去されました。獨協大学の1期生で、獨協大学同窓会会長、中高の同窓会で数々の役職を務められました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

令和4年度 通常総会 報告

令和4年度通常総会は、6月18日（土）午後4時から3年ぶりに母校小講堂で開催しました。執行部をはじめ、29名にご参加頂き、委任状は128通受理いたしました。独協通信97号以降にご連絡頂いた物故会員25名に黙祷を捧げ、開会しました。独協通信98号でご案内しました1～5号議案に承認頂きました。

令和3～4年度の概要 (詳細は98号通信をご覧ください)

【第1号議案（令和3年度事業報告）】

新型コロナウイルス感染症拡大防止策を学校と協力し継続した。通常総会及び幹事会、常任幹事会、各委員会はWeb開催とした。

【第2号議案（令和3年度収支決算）】

支出額 ¥8,649,745
収入額 ¥15,407,760

【第3号議案（令和4年度事業計画）】

前年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止策を学校と協議して講じる。獨協祭、OB講演会に参加、企画する。一般会費納入者増加を計り、自動引き落としシステムの案内を継続すると共に、ホームページにてPRする。例年通り、クラス会・OB会等の補助金を継続する。

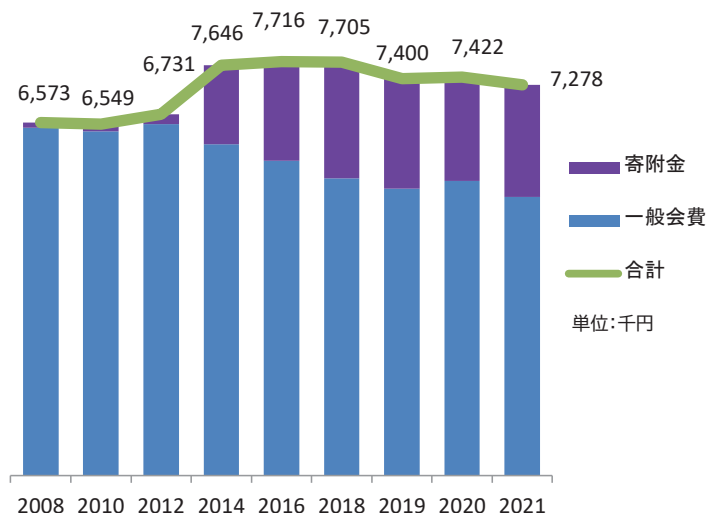
【第4号議案（令和4年度収支予算案）】

支出額 ¥12,054,000
収入額 ¥14,900,000

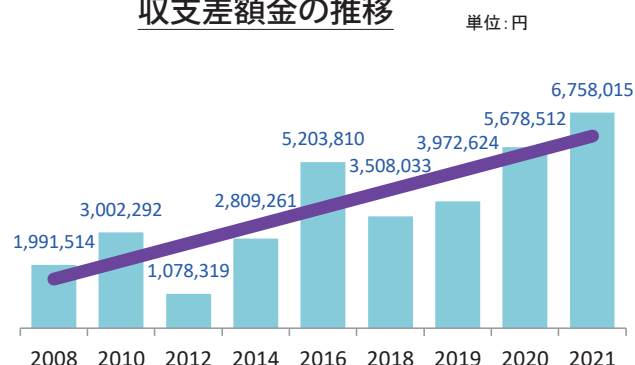
【第5号議案（会費の前納について）】

数年分の会費を一括して前納を希望する問い合わせがあったため、会則を変更し前納を可能にした。

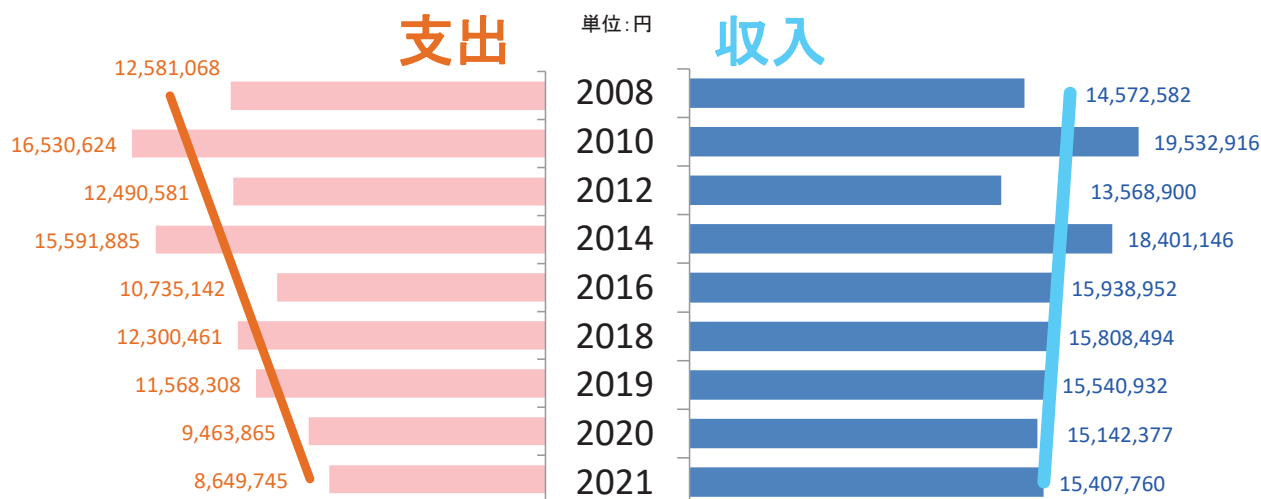
一般会費と寄附金の推移



収支差額金の推移



同窓会出入金額の推移



会員の皆様には
年会費の継続納付をお願い申し上げます

令和4年度 総会前特別講演会 報告

令和4年度通常総会に先立ち、15:00 から講演会を開催しました。

演者：鈴木荘太郎（昭和35年卒）

演題：「胃を診て半世紀」

鈴木先生は、獨協高校を卒業後、日本医科大学へ進学。卒業後は、国立がんセンター中央病院・内視鏡部に所属。その後、東海大学教授、東邦大学教授を歴任され、今では健診で当たり前になった胃カメラ・大腸鏡などにその開発期から携りました。

ご講演は、内視鏡の開発、発展から始まり、1回/年の健診（ドック）で内視鏡（胃カメラや大腸鏡）を施行する重要性で締めくくられ、参加者一同、息をのみました。

本演題内容は、2020年にご講演頂きたくご準備をお願いしていましたが、コロナ禍のため、3年ぶりに実現いたしました。

（ご略歴の詳細につきましては、98号通信をご覧ください。）



いつも笑顔で、分かり易くご講演頂く鈴木先生



内視鏡が臨床応用された当時の写真も紹介されました

鈴木荘太郎先生からメッセージを頂きました

本年6月の同窓会総会前の特別講演の機会を頂き、木原会長並びに役員の皆様へお礼申し上げます。

私が臨床研修医時代は、胃がんがわが国の死亡疾患の第一位であり、早期発見を目的としたX線検査と胃カメラの開発が活発でありました。国立がんセンターでは胃X線検査の開発者の一人である市川平三郎先生が放射線診断部長であり、胃カメラを開発した東大分院の宇治達郎先生を引継いだ、東大第一内科第八研究

室が、がんセンターの内視鏡部を担当していました。

昭和48年度よりがんセンターの内視鏡部で学び、胃X線診断と内視鏡検査の開発者で、教科書を書かれている先生方より直接指導を受ける幸運に恵まれ、その後、指導する立場では基本的で正統的な内容を準拠することが出来ました。現在も月間で500～600例の胃X線診断と50～60例の胃内視鏡検査を担当する機会に恵まれています。

総務課長 淀縄 哲之さん (昭和 61 年卒業) 平成 9 年～令和 3 年：野球部監督

情の野球

野球部の部室の天井には「野球哲学」が掲示されている。

「野球の長所は人生のあらゆることが当てはまる点であろう。常に自己と全体とが調和を守らなければならない。各人が勝手にポジションを離れたり無茶な行動はとれない。しかもその中に、個人としての自由が無限にある。自由というものは一定のルールの中にあってこそ存在するものなのに、ともすれば自由と放縦をはき違えるものが多いが野球の中の個人の自由こそ、人生の自由にあてはまる。また、野球には細心の注意と忍耐力と最後までくさらず食い下がって行くねばり強さ、フェアプレーなどあらゆる長所がある。私はこの点を学んだから人から悪口を言われてもくさらず最後までやり抜く修業ができたと言っている。特にフェアプレーを忘れては野球の価値は全くない。(略)」

いつ書かれたものかわからないが、「…このような野球哲学はそのまま人生哲学に通ずる。天野貞佑」と結ばれる。素晴らしい…。これは野球部のお宝である。

私の現役時代の監督は長坂さん。卒業生である (S42 卒)。よって私には長坂イズムが流れている。

教員ではなく会社員であったことから、自然とその指導は「社会において」となる。「靴の踵を踏んで歩くな」とか、「靴の紐はすぐ履けるように常に緩めておけ」とか、いちいちうるさいし怖い。しかしお陰で色々なものが身体に染み込んだ。音楽で教わったドイツ語の歌と同じように。



最後の大会を終えて解放される選手達



筆者

試合中は「攻めんだよ、バカヤロー」と、試合後の説教では「自分のためにしっかり頑張っ
てあげなきゃ」、長坂さんのこんなフレーズが忘れられない。高校を卒業してからは後輩の練習を手伝った。よく面倒をみていたのでコーチにもらった。お陰で指導者側の考えを知る機会が増えた。「あいつは一生懸命やってるから試合に出してあげないと」「しっかり怒ってやらないと本番で泣くはめに」と。こうしたセリフは指導するための礎としてどんどん染み込んでくる。「主役は自分ではなく選手」と学び直していった。社会人となり母校の事務職に転職してから4年後、ついに監督を交代してもらった。

母校で活躍する同窓生

獨協の選手は残念ながら力量が低い。全員を1人前の高校球児にするには3年間では到底足りない。それなのに「目標は4回戦」と高く掲げる。勉強に例えるなら後方から現役で有名私立大学合格を目指すようなものだろう。不可能ではないところがいい。

最後の大会は野球の力量に関係なく3年生を中心にメンバーを組む。外野手が5人いればレフトとライトを5回の表で交代させて、半分ずつ試合に出すこともあった。たださえ勝つのは難しいのに自らハードルを上げる。「勝つために選手の起用は非情に」とお叱りを受けるが、「3年生を主役に」はイズムの継承であり譲れない。そもそも「非情」になんてなれないのである。私は獨協生だ。



元気にウォーミングアップする選手達



監督に指示を受ける選手達

4回戦で戦うためにはそのレベルに慣れなければならない。練習試合は格上の相手ばかり選ぶ。

年間で50試合、多いと70試合ぐらい取り組むが、勝つことは希でありひと桁の数字だった。毎回大量失点するので常に満身創痍である。これだけ大敗が続くとさすがに苦しいものだ。「獨協さんはどんなに点を取られても、ずっと最後まで選手が大声を出し続ける。どうしてめげない?(笑)。」これはもはや最大の誉め言葉である。めげていない訳がない。もはや溺れて必死に藁にすがっているのだ。

「勝ちたければ3回は泣け」と涙堪えて叱咤する。どれだけ負けても「50転び51起き」と無理やり奮起させる。最初はなんとなく泣く。次は本気で泣く。最後は「あれだけやったのにもう無理だ」と心が折れて泣く。「これ以上できません」「じゃあ止めるか?」そこで止める者はほとんどいない。どん底に辿り着けばそれ以上沈むことはない。やがて「開き直り」や「覚悟」といった覚醒が始まる。「やればできるじゃないか・・・」。やればできるのにやらないのが獨協生。晩生な者ばかりで目覚めが遅い。

だからたくさん負けないと成長してくれないようだ。練習試合の休憩時間に相手の先生と話す。「淀縄さんは獨協の卒業生ですか?」

「そうです…。獨協が獨協を教える悪循環でして(笑)。」よくこんな風にお道化た。チームには監督の色が表れる。弱いくせに劇画調、もはや漫画である。何年やっても最後の夏は背水の陣。いつまでも懲りないのは監督自身なのだということはよく分かっている。

数年前、星稜高校が初めて全国大会の決勝戦に進んだ。ヤクルトに入団したあの奥川君を擁しての挑戦だったが残念ながら準優勝に終わった。OBであるあの Yankeesの松井秀喜さんがコメントを寄せた。「ここで優勝できないのが、星稜らしい。母校のそういうところが大好き。」彼の母校愛と人柄が滲み出ていてとても惹かれた。

獨協には色々な卒業生がいて、それぞれの獨協があるに違いない。私が好きな獨協は「情が深い」ところである。家族的な情愛に満ちていて温かい。

脈々と受け継がれる獨協イズム。時代と共に進展すれば良い。そこに携わる者達の熱量さえ減らなければ、未来はきっと明るいはず。大いにこれからの発展に期待したいと思う。末筆となりましたが、皆様にはお礼を言わせてください。監督になり幸せな時間を過ごすことができました。皆様のたくさんのご声援とご支援のおかげで続けられたものと感謝いたします。ご厚情に心からお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。



勝って記念撮影(この年代は5回戦まで進出した)



Jakobi-Kirche Herford-Mitte ヘルフォルト中心部に聳えるヤコビ教会 google map

フランクフルトの空港から鉄道で行き着いたヘルフォルトの街は、期待を裏切らず素晴らしい所でした。ドイツの田舎街の典型がここにありました。わずか二か月滞在した後もまた戻って来ようと何度思ったことか。

さてこの地は観光のために来たものではありません。ゲーテ・インスティトゥート（「ゲーテ協会」という訳語は現在では使われていないそうです）の夏季集中コースでドイツ語を学ぶためです。ここはただの語学学校ではありません。日本にも日本語を教える学校はありますが、それらは来日した外国人に対するもので、ゲーテ・インスティトゥートは諸外国に拠点を作ってその国の人にドイツ語を教えるのが基本的な活動方針です。従ってドイツ国内に語学教室を開くのは例外的なものです（当時の話）。

待ち構えるより出向いた方が間違いなく多くの受講生を獲得できます。結果、外国の人がドイツ語を話すようになれば、それはそのままドイツの国力向上につながります。国際交流もその結果として付いてきます。名前の頭に国立を示す Bundes ~、National ~、すらありませんが、れっきとした国立機関です。世界の公用語とも言える英語、それに続け、遅れをとるなという国策と言うか国の思惑が見て取れます。



ヤコビ教会

「国策」と表現するのは大げさだったでしょうか。ドイツ連邦共和国はその名の通り連邦国家です。連邦州 (Bundesländer) が幾つも集まって一国 (ein Bund) を形成しています。ドイツはかつての主権国家 (souveräne Länder) の同盟 (Bündnis) から生まれたという歴史的背景もあって州政府 (Landesregierung) の独立性が高いのです。そんな国が、たかが語学学校を国立機関としたのです。正に「国策」ではないでしょうか。それにまんまと乗ってしまったという訳です。

そこで様々な国の人に出会いました。肌の色は様々、アメリカ人、インド人、インドネシア人 (華僑)、オーストラリア人、中国人、トルコ人、ナイジェリア人、フィリピン人、ベトナム人、マレーシア人、そしてどこにでもいる日本人。どこかの国の軍人さんもいたのですが、国名は訊きませんでした (本人が言わないことは詮索しない、それが外国で学んだ知恵です)。ドイツ語を学ぶ理由は、配偶者がドイツ人だから、この国で働きたい、働いている、学びたい、休暇中に立ち寄ったなど様々でした。

特にトルコ人は親日家ばかりで全員と交友が生まれました。彼らはドイツ語の初心者ながら会話が上手で、自分が日本で8年間もドイツ語を学んでいたことなど恥ずかしくてとても言えませんでした。

ドイツ人と話すのが上達の近道ですが、この学校もそんなことはわきまえていて、受講生の滞在先の宿主や地元のボランティアを集めてパーティを催してくれました。テーブルに我々外国人に対して同じ数のドイツ人を侍らせて会話の練習です。向こうから話題を振ってくるので何とか話をする他ありません。

思えば一番気楽だったこの頃。当面お金の心配がなく、目前に迫る進路問題を除けば、さほど大きなプレッシャーもない。見るもの聞くもの何もかも新鮮で、こんな感動がいつまでも続くように願ってすらいました。もちろん外国の地に暮らすという不安もありましたが、これも新しい体験をするという、ワクワクする快さに代わったりして。当時のそんな気持ちとこの街は完全に同期しています、街を思い出すだけであるときのワクワクが蘇ってきます、今そう書いているときも。

ゲーテ・インスティトゥートにいる間に留学先をベルリン工科大学 (Technische Universität Berlin) と

定めて、再び鉄道の旅です。その大学に決めた理由について説明するには字数が足りません。「賽を振った」と言っても過言でもないようなことです。夜行列車は東独の闇の中を潜り抜けて行きました。



東西冷戦時代、ベルリン大空輸の舞台となったテンペルホーフ空港：現在は廃港

一睡もせず西ベルリンに到着、本当の留學生活の始まりです。そこは主要駅のベルリンツォーローグッシャーガルテンです（駅前には名前の由来の動物園（Zoologischer Garten））。終着駅ではないので、うかうかしていると東ベルリンまで連れて行かれます。ドイツでは列車は静かに停車し、乗客を乗降させてまた静かに発車するからです。

西とか東とか、意味が分からない人のために簡単に説明します。当時ドイツは東西に分かれていました。西は現在のドイツ連邦共和国（Bundesrepublik Deutschland；BRD）です。東はドイツ民主共和国（Deutsche Demokratische Republik；DDR）と言ってソ連が統治する共産国でした。

終戦後、ベルリンはソ連の占領地域の中に在りながら東西に分けられました。それまでは首都だったので英米仏の連合軍がベルリンの西地域を死守したのです。それを望まないソ連が黙ってはいません、突然、西ベルリンへの陸路と鉄道を封鎖するという暴挙に出たことがありました（1948年（昭和23年）6月）。それを連合軍は援助物資を空輸で送り届け続けるという「ベルリン大空輸」で対応し、翌年の封鎖解除を勝ち取りました。西独の建国は封鎖解除の直後、東独の建国はそれを受けてその五ヶ月後です。

ベルリン中心部に位置するカイザー・ヴィルヘルム記念教会：第二次大戦で空襲を受けて破壊された状態で保存されている



ソ連は連合軍と取り決めた4ヶ国地位協定を無視してそこを首都としました。西独は首都をボン(Bonn)に移しました。協定を順守した、のではなく西ベルリンはそもそも西独ではなくなっていたのです。矛盾するようですが西独の一州と承認されてはいました。ここは都市州と言って都市であり州でもあるのです。周知の通り、東ベルリン暴動、ベルリンの壁など、建国後も何かと騒動が起こる街でした。



当時のベルリン工科大学

訪れた1972年（昭和47年）、西ベルリンを含む西独は市民が他州に移るのを懸念してか、政策として人集めをしている状況でした。年金生活者には年金を高くしたり、労働可能年齢者には暖房費という名目で支援金を給付したり、また西ベルリンへの投資には税制上の便宜を図るなどの経済的優遇がそのひとつです。当時18歳以上の男性に課せられていた兵役も西ベルリンの大学生には免除されていました。

文化の面でもベルリン・フィルハーモニー（Berliner Philharmonie）を始め、歌劇場、美術館、博物館などの文化施設が贅沢に散在していました。世界三大映画祭のひとつベルリン国際映画祭（Berlinale）がここで開催されるのも文化の街ベルリンを世界にアピールするのが目的でしょう。忘れてはいけないのは、そんな街にも米軍の駐屯地があったことです。英米仏が西ベルリンを統治していたことを思い知らされます。



ベルリンフィルハーモニー

街の紹介はこの位にして、ベルリン工科大学（Technische Universität Berlin；TUB《テーウーバー》）の話です。正確に訳せば工科総合大学でしょうか。大学には総合大学（Universität）と単科大学（Hochschule）があって、総合大学は単科大学の集合と思えば、ほぼ正解でしょう。終戦直後に、ある王立の工科大学から工科総合大学に昇格しました。工学など学問ではないという風潮から抜け出した西独州初の工科系の総合大学です。言わばTUの先輩です。ここを皮切りに西独の各州で工科総合大学が次々作られました。

さらにもうひとつの総合大学がベルリン自由大学（Freie Universität Berlin；FU《エフウー》）です。森鷗外が学び、アインシュタインが教壇に立った、かつてのフリードリヒ・ヴィルヘルム大学は東にあったため、戦後は東独が継承し、ベルリン・フンボルト大学と改称しています。しかしこの大学を継承したのは自由大学であると西ベルリン側は主張していました。このFUもTUBもベルリン州立の大学です。

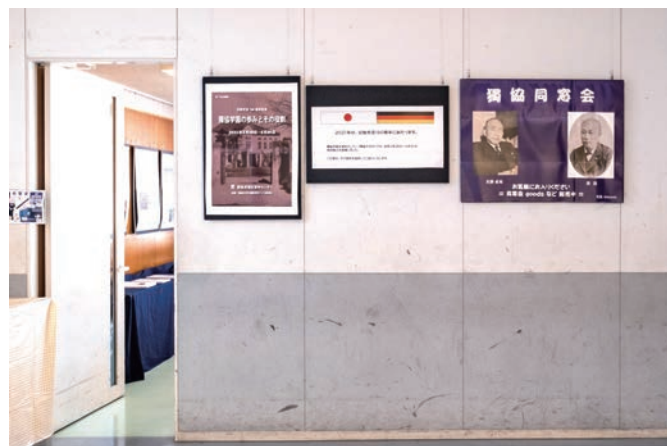
ちなみに東ベルリンの森鷗外の住居は「森鷗外記念室」と名を変え観光スポットになっていました（現：「森鷗外記念館」）。ベルリンを舞台にした小説「舞姫」の影響か、東では有名人でした。

獨協祭に参加しました

令和4年9月25日、3年ぶりに通常開催されました。しかし入場可能者は、生徒保護者に加えネットでの事前申し込みの当選者に限定するなど制限されました。このような中、同窓生の入場はご遠慮頂くよう、同窓会ホームページでご案内させて頂きました。また、台風の影響を考慮して24日(土)は中止されました。

今年の同窓会室の展示テーマは、日独交流160周年の特集です。この展示は、獨協学園資料室(獨大)にて本年3月から6月に特集展示された資料をお借りしました。また、同時に作製された冊子を300部購入して、自由配布いたしました。

本展示にご理解とご協力を賜りました獨協学園史料センター片岡美浦様に感謝申し上げます。



同窓会展示室の入口



日独交流160周年特集展示と冊子



記念写真撮影コーナー

また、2018年以来好評を博している記念写真スピードサービスも実施しました。同窓会旗をバックにし、50組(100名を超える)の皆様を撮影いたしました(無料)。

獨協祭参加報告



OB会紹介コーナー
ドクターズクラブ・歯科医師獨協会・サッカー部

そして、恒例のOB会紹介コーナーでは、ドクターズクラブ、歯科医師獨協会、サッカー部、鉄道研究部の展示をいたしました。

グッズ頒布コーナーでは、同窓会グッズをはじめ、野球部応援Tシャツ・キャップ、サッカー部目白ダービー10周年記念Tシャツ、鉄道研究部OB会設立記念ポロシャツを頒布しました。



鉄道研究部



記念写真スピードサービス 撮影した写真は2Lサイズにプリントしてご提供しました



獨協ぶらり旅

行川恭央 (昭和63年卒)

「獨協ぶらり旅」では、卒業生が営む飲食店・商店または各界でのご活躍ぶりをご紹介します。思わぬところに同窓生がいます。是非、お訪ねください！

有限会社 石六

高橋佳昭さん 昭和63年卒業

下町情緒あふれる「谷根千」と呼ばれる人気スポットを今回は訪ねてみました。

日暮里駅から朝倉彫塑館を横目に寺町をぶらりと三崎坂を目指して歩いていくと石六があります。天保年間から約200年続く、墓碑記念碑などの工事や設計を行う石材店です。その六代目が高橋佳昭さん。代表取締役の高橋さんとお父様、職人さんの3人で切り盛りしています。

高橋さんは、昭和60年に獨協高校に入学しました。高校時代の主管は、英語の清水徹郎先生、社会の服部武司先生でした。青山学院大学理工学部に進学して機械工学を学び、東芝に就職しました。水質測定センサーの開発に6年間従事していたそうです。30歳を前に歴史ある家業を継ぐことを決断しましたが、「いずれは」という気持ちはずっと持っていたそうです。



谷中には、現在石材店が7軒、最盛期は28軒もあったそうです。お寺はなんと約70軒もあるそうで、そのいくつかを高橋さんの案内でまわり、建てたお墓を見せてもらいました。最近、墓じまいや樹木葬など、昔ながらの墓石は逆風ようです。一方で、こだわりのお墓を建てる人も増えていて、店頭展示にも力を入れているそうです。

数年前、近所のお寺から港区に改葬の仕事をしたときに移転先の住職が獨協高校の同級生だったというびっくりする出会いがあったそうです。また、最近高校時代の仲間からお墓の注文を受けたそうで、獨協の絆が結んだ仕事に張り切っているとのこと。



石材店と言えば50代以上の人にはドラマ『寺内貫太郎一家』を懐かしく思い出すのではないのでしょうか？

制作当時、脚本家の向田邦子さんや演出の久世光彦さんが実際にこちらに取材に来たそうです。高橋君は再放送を観ると、店と同じ道具や看板がたくさん出てくるので、いつも感動してしまうそうです。

同窓の皆さんも貫太郎がいた下町の空気を感じながらぶらり寺町を散策してみてもは如何でしょうか。



東京都台東区谷中5-4-1
電話 03-3823-1469



ホームページ



Google map

混ぜそばみなみ

三井 航さん 平成 17 年卒業

JR 中央線高円寺駅南口から徒歩 5 分「混ぜそばみなみ」麺専門店です。

店主の三井航氏は、6 歳上の兄君が獨協高校に通っており、当時自宅が文京区音羽一丁目で、徒歩で通学できることもあり、獨協中学に平成 11 年に入学。主管は、小島先生、馬越先生、河野先生、則武先生、兼子先生。中学 1 年よりテニス部、軽音楽部と部活に励み、特にテニス部の合宿では、OB の参加もあり楽しく青春の汗を流した日々であったとの事。

6 年間過ごした獨協中高のイメージは「やんちゃでわんぱくな男子校」と云う。



その後、玉川大学文学部リベラルアーツ学科に進学し、油そば専門店アルバイトをしながらの大学生活。その間、河野先生から学んだ英語を駆使し米国ニューヨークへ 1 年間の語学留学も経験。卒業後アパレルメーカーのアダストリア社に入社し 2 年間勤務した。

東日本大震災を機に何かにチャレンジしようと吉本興業に入社、お笑いのコンビを組むも退社。同期にゆりあんレトリバー、ひよっこりはん等がいたようだ。

同時に麺やでアルバイトをやっていたため、熟知している麺で身を立ようと思い、若い世代が多い高円寺で「混ぜそばみなみ」を 2015 年 5 月にオープンした。おすすめメニューは TBS 系列「マツコの知らない世界」台湾混ぜそばの回にて紹介された「バター台湾混ぜそば」で、ネギや海苔、卵、ピリ辛のひき肉をのせ、中太麺としっかり絡めていただく、まろやかな味わいで、バターが加わることでよりマイルドな味わいに変化、残ったタレは「追い飯」をしてホカホカのご飯といただく最高の一品です。

また「コロナ禍に於いては、営業時間を短縮しつつも従業員の給与の維持に努め、一丸となって乗り越えられた」と語ってくれました。

〒 166-0003 東京都杉並区高円寺南 4 - 7 - 5
 電話 03-6454-6854
 営業時間 11:00 ~ 23:30
 定休日無し



取材に訪れた3人と一緒に
 (左から) 行川、新井、三井さん、谷田貝



ホームページ



Google map

新井孝重さんは『絵本太平記』を出版されました

(昭和43年卒業) 1980年～1993年 社会科教諭

この度、絵入りの本『絵本太平記』を出版しました。太平記は足利尊氏や楠正成の時代に編まれた戦記文学です。足利や楠の時代は朝廷が南朝と北朝に分裂していました。このため南北朝時代と呼ばれています。

南北朝の戦乱は14世紀前半から60年間も続きました。戦乱の経過を叙述する太平記も、当然長大なものとなっています。この本では鎌倉幕府の滅亡までとなっています。そこに至るまでの大筋は、わかりやすい口語であらわされ、絵が添えられています。

はなしは仏教の法力で鎌倉を呪い倒す宮中の祈祷(鎌倉調伏)から始まり、後醍醐天皇らによる鎌倉討伐の活動と挙兵、比叡山僧兵や楠正成らの動きへと移っていき、京都六波羅へ迫る西国の武士や足利らの合戦、そして鎌倉北条氏の滅亡へとつづきます。

文の中に配された絵は39枚。その一枚一枚は細部にわたり穂先の細い筆で描かれています。武者のすが

たは有職書^{ゆうそくしょ}を調べ、鎧のつくりを正確に描写することを心掛けたとのこと。また軍勢が通る京・鎌倉の街路と町屋は、中世の絵巻類にある住宅を参考にし、また都市社会史の研究を学んで描いたそうです。

獨協在職のころ、新井さんが中学社会科の授業で、黒板に絵を描いているいろいろなことを説明すると、生徒たちは大いに喜び、授業に食いついてきたとのこと。絵をたくさん添えて太平記を楽しく学べるようにしたい、そんな思いでこの本を著したのでしょう。

太平記の時代はそれまで埋もれていた下層の民衆が、歴史の表面に生き生きと登場してくる時代だそうです。はなしの随所に悪党や野伏があらわれ、名のある武士がかれるのために思わぬ不覚をとる。そんなところに、歴史の大きな変化を見ていただければ、と新井さんは話します。



(三省堂書店 / 創英社刊)
2022年7月2日



39枚に及ぶ挿絵の一つ

ご略歴

新井孝重(あらいたかしげ)

1950年 埼玉県に生まれる

1968年 獨協高校卒業

1973年 早稲田大学第一文学部卒業

1983年 同大学大学院博士課程修了

2001年 文学博士学位取得

獨協中学高等学校教諭を経て、
獨協大学経済学部教授、
現在、獨協大学名誉教授



Amazon でご覧ください

放送部 OB 会 大澤悠里君お疲れ様会を開催

皆様ご存知の通り、大澤悠里君が 58 年の長きに亘り TBS の名物アナウンサーとしてご活躍しておりましたが、この 3 月末をもってレギュラー番組全てを卒業致しましたので我が放送部 OB 会として「労いの会」を銀座三笠会館にて 7 月 4 日開催いたしました。

獨協放送部は昭和 28 年卒業の浅井秀雄さんを筆頭に、たったの 10 年間の活動でしたが、その間、獨協の中興を成し遂げていただいた天野貞祐先生の招聘の時などの裏方の活動語録、貴重な生徒会の記録、父兄会の動きや記録、教職員の動き、当時の学校新聞など貴重な資料の保存、そして、昭和 27 年 11 月 11 日、講堂の床が抜け落ちるのではと心配しながらも白熱した生徒会総会の模様を録音、その録音テープの保存活動などもして参りました。

昭和 27 年といえば東京通信工業（現在の SONY）が初めて 5 インチのリールで紙製のテープ付きで録音機を発売したばかり、音声録音機はまだ一般にはあまり知られてはいない時代でした。

（戦後 NHK が街頭録音をして放送をした機械は全て GHQ より貸与されたもの）

生徒会長でもあり、放送部の部長だった故川口喜八郎さんという非常に几帳面だった方が当時の貴重な記録を大切に保管されておりましたので、後輩の私共がそれを引き継いで大切に保管することができ、

獨協 100 年誌の制作にも重要な役割を果たしてきました。その間、S28 年卒業のデスクジョッキーで名を成した浅井秀雄さん、スケートの川村孝一さん、劇団俳優で、多くの山田洋次監督の映画にも出演された遠藤正登さん、俳優から歌手に転向された滝沢真佐之さん、そして、ニッポン放送の深夜番組で活躍され、のちに電通でも活躍された中川勝介さん、TBS の大澤悠里さんなど多数の優秀な人材を輩出しました。

残念ながら、最初の新校舎建設で放送設備を整える余裕も場所もなくなった関係で部活動ができなくなり、消滅してしまいました。それまで放送室の防音施設建設から手作りのアンプ制作、各教室へのスピーカーの設置まで全てを部員皆で担い、率先して放送部の運営を支えて頂いた故川口喜八郎さんや故上野義一さんなどの先輩のおかげで立派な放送施設が出来上がりました。それを利用して、放送劇を徹夜で制作して、それを校内放送もしました。

一方、朝礼会や運動会、校内連絡放送を一手に引き受け、楽しい部活動をしてまいりました。また、他校（女子校）との交流の機会も沢山ありました。

放送という事業は今でも携わりたい人は沢山おられ、最も就職の狭き門の一つですが、獨協でもこれだけの方々をたった 10 年の間で沢山排出することができた時代があったことを皆様にお知らせしておきたいと思います。 橋本正樹（昭和 32 年卒）



昭和 41 年卒 ミニクラス会

令和 4 年 7 月 2 日 (土) 銀座左京ひがしやま

出席者：石田典昭君、島田英資君、正木忠明君、加藤誠君、山口勉君、相馬一亥君、白水功君、喜多淳太君、平岡徳朗君、小杉喬志君、森田芳和君、北岡高明君、中村昭美、合計 13 名で、この 2 年コロナ禍の中で開催できず、やっと今回開催にこぎつけました。

白水君の推薦でこの銀座の左京ひがしやまを貸切っていたいただきました。今回先生を御呼びしようと努力し

ましたが、急遽決まりましたので御呼びできませんでした。最初にこの 2 年間に残念ながら逝去された友人達の追悼後、幹事の平岡君乾杯の音頭で各自、現状を交え学生時代の思い出話で 2 時間半の時間はあっという間でした。

今後の同窓会参加などの話をしながら散会し来年の 1 月末にコロナに負けず会えることを約束して……

中村昭美 (昭和 41 年卒)



昭和 46 年卒 ミニミニ同窓会

令和 4 年 4 月 7 日 (木) 向島の秀寿司で開催しました。

開催にあたって、コロナ禍でもあり 中学、高校の恩師である石井征次先生と幹事の小川さんと関根、福岡、坂下に加え山田の 6 名のごくごく少人数で実施しました。

浅草雷門で待ち合わせ、浅草寺をお参りした後に会場である秀寿司へと移動しました。会場に到着した時、参加者は 6 名にも拘わらず何故か席が 8 席もあり不思議に思ったのですが、幹事の小川さんの粋なご配慮により、向島の芸者さんが 2 名も同席したのです。

なんと粋な計らい、当日の最初のサプライズでした。

過去に、3 回石井先生をはじめ多数の先生と同窓生を囲んで行った同窓会とは違う雰囲気、学生時代の話から現在の話までおおいに盛り上がりました。

次のサプライズは 2 次会の向島のお茶屋さんでした。そこでなかなか経験できない、芸者さんのあでやかな踊りと艶のある声でのお囃子を味わえ、石井先生と共に豊かな時間を過ごすことができ、楽しい 1 日となりました。 山田嘉一郎 (昭和 46 年卒)



演劇部OB会

2022年6月24日(土)、新宿三丁目満月廬にて獨協演劇部OB会を行いました。美術科 渡辺哲之先生の退任に伴い、お祝いとお疲れ様を兼ねての会と相まりました。コロナ禍の影響で退任直後を予定していた会が伸ばし伸ばしとなり、当初の予定から1年以上経ったところで無事開催することが出来ました。1992年

全国大会へ出場した際、尽力頂いた渡辺先生の退任ということで、当時の部員を中心にお互いの腹回りと近況を話し合い、一瞬で当時に戻る痛快な夜の会でした。こうした会を催すことが出来、ご支援頂いた同窓会に至極感謝しております。友部 康志(平成5卒)



鉄道研究部OB会 発足式開催

鉄道研究部のOB会が2022年10月15日に発足しました。構想から5年、コロナ禍によって延期に延期を重ね、本来なら2020年に迎えたはずだった創部50周年の節目と合わせて、ホテル椿山荘東京にて記念パーティーを催しました。鉄研草創期のOBと当時の顧問の先生から昨春卒業したばかりの若手まで、総勢50名余が一堂に会しました。

創設メンバーの沖山氏(1974年卒)によるあいさつに始まり、OB会の発足に中心となって活動した小畑氏(2015年卒)の開会宣言で華やかに始まった懇親会。思い出話に興じた立食パーティーのあとは、往

年の名列車の名が冠された班対抗で「鉄道クイズ大会」が行われました。マニアックな問題には、この道ウン十年の鉄ちゃんたちも頭をひねる一幕が。高得点の班には景品が贈られました。今回は中間テスト直前の開催となったため、残念ながら現役部員の参加は叶いませんでした。今後は貸切列車などのイベントで現役部員との交流を通し、母校鉄研のさらなる活動の充実を後押しするべく当OB会は活動してまいります。

積田 檀(平成29卒)
dokkyomejirotekken.obkai@gmail.com



私の近況

●今年で95歳になりますが、現役で内科医師をしています。今年3月、妻は92歳で亡くなり段々仕事がいずらくなっていますが、診察している時のみ生きている感じです。時々S20年5卒の同級生2人と連絡はとっています。同封の1万円、同窓会費として何かに使ってください。来年は解りませんので。

＜鹿島正安（昭和20年5卒）＞

●独協通信を見ると同級生が何人も亡くなっていた。哀しいね！目下元気ですが先日転んで少々ケガ、大事に至らず良かった。今までいろいろな会（銀行など）の会長をやっていたが、今年はそれもオサラバいたします。近くの歯医者さんが獨協卒の方、時々獨協の話をしていただきます。今、大久間先生の写真を見て、先生が亡くなってからもう拾数年たちました。獨協はなつかしい！！

＜石井進（昭和20年卒）＞

●中学時代は東京女子医大の吉岡弥生先生のご長男、吉岡正明先生が校長でしたが、何故か卒業証書は額田豊先生（東邦医大創立）になっていました。額田先生とはご自宅の有った赤坂でお会いしました。又、卒業後はやはり天野先生のご長男の天野さんが武蔵野音響として電気部品の会社をやり、立派な方でした。

＜片田基義（昭和30年卒）＞

●2022年（令和4年）4月25日から28日にかけて、夜明け前の東天に金星、火星、木星、土星と月が並

んだ。惑星が集合して見えるのは極めて珍しい。そこに下弦の月が加わり、豪華な天体ショーが繰り広げられた。私は思わず一句を詠んだ。「ロマン呼ぶ

宇宙の果ての 美しさ」 齢84、創立139年、歴史と伝統のある我が母校、獨協に感謝して健康と長寿を祈るのみ。「日独の交流燦たる我が母校」

＜小川秀明（昭和32年卒）＞

●今年3月に80歳になりました。5月に妻の7回忌、長男の3回忌法事を行い、元気にしています。天気の良い日にはゴルフを楽しみ、他の日には近くのジムに通い2km位ベルトの上を歩くように心掛け、視力1.2を維持してゴルフを続けたいと思います。

＜浅沼博（昭和35年卒）＞

●獨協高校にお世話戴いた時の名字は河津です。その後、日大工科建設学科建築で卒業です。父の会社に50歳代社長でいましたが、現在別会社を設立し会長と成っています（創業29年です）。

＜蓮池攻（昭和37年卒）＞

●現在、近くのスポーツジムでヨガ、太極拳、エアロビクスを行っています。1日一つがやっとなです。何とか元気に暮らしております。

＜安田種光（昭和38年）＞

●井口先輩お元気で何よりです。獨協大学経営学科1期生卒業。数年後、上場予定の群馬県沼田市の会社（従業員1,000名位）に入社。S48年10月結婚。8ヶ月後のS49年6月に会社倒産（NHKニュース速報で放映、170億円の負債、今の1700億円位）。転職6回（七転び八起き）。昨年12月に退職。コロナ禍になる前年まで12年間、毎年8～9泊の海外旅行を妻と行く。一昨年12月に太極拳3段合格。皆様お元気で！

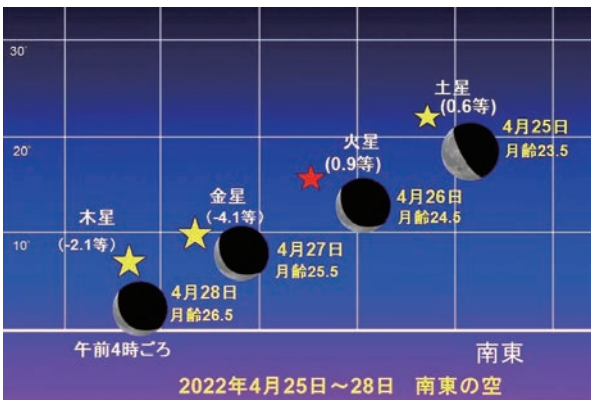
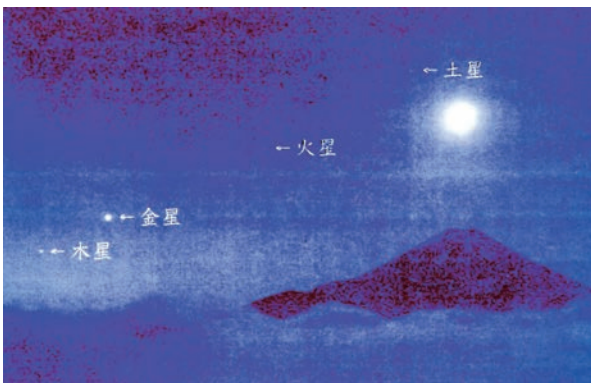
＜木田吉成（昭和40年卒）＞

●獨協ソフィア会に是非御参加下さい。対象は目白卒のみならず、獨協埼玉高校卒も一緒です。上智大学に進学された方、ご一報下さい。

m-teru48@mth.biglobe.ne.jp

＜獨協ソフィア会 会長 宮崎輝雄（昭和42年卒）＞

●大変御無沙汰しています。在校中は生徒会監査委員長をさせて頂き、又、硬式テニス部でも先輩、同僚、後輩に世話になりました。そして、天野貞祐校長にドイツ語を習いました。卒業時には1人1人校長室で話をし、卒業アルバムに書いて頂きました（私は、Ich kann, denn Ich soll）。また、天野先生がいつも言われていた言葉は、「パット行動」「何でもいいから自分が正しいと思った事は素早くやりな



那須香大阪天文台HPより引用

私の近況

さい。」「過去に感謝、現在に信頼、未来に希望をもって生き続けなさい。」ということが思い出にあります。主幹は糸井透先生で、私が卒業後、獨協大学経済学部の際には、獨協大学講師になり後に教授になりました。私は大学では硬式庭球部に入学し3年の時に主将幹部になりリーグ戦は全勝優勝しました。社会人で65歳まで働き現在71歳になり妻と共に北アルプスや南アルプスなど登山や旅行を楽しんでいます。これからもよろしくお祈りいたします。

＜秋元寿明（昭和45年卒）＞

●こんにちはお元気ですか

私事今春、ウェルニッケ脳症、亜急性連合脊髄変性症の併発により視力聴力言語歩行に多少不便さを感じるようになりました。介護認定は要介護1。そして29年間住み慣れた自宅を売却し民間賃貸アパートへ転居いたしました。人生いろいろありますね、お元気です！ 私もまだまだ一人しぶとく明るく元気に開き直って生き抜きます。落ち着いたら一人東南アジアへ旅行したい。4～5年住んだ後は介護施設へうつります。

＜青木秀夫（昭和45年卒）＞

●太田朝博先生は獨協時代一番お世話になった先生です。中学の時、越生に友人達とキャンプに行くのに保護者として来て下さいました。今思えば仕事でもないのに申し訳なかったです。先生ほんとうにありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

＜河原一博（昭和46年卒）＞

●小平市で腎疾患、介護施設を展開している医療法人の理事長を務めています。医師会には、獨協の卒業生が多数居て交流を深めています。

＜小澤 尚（昭和48年卒）＞

●約8年前より2ヶ月に1度は続けていた同級会もコロナのせいでここ2年中断していました。やっとこの4月より再開し、皆、無事酔っぱらうことが出来ました。コロナ禍で生命、身体、生活に被害を受けられた方々に心よりお悔みを申し上げます。皆さん元気を出して頑張りましょう！

＜神田良介（昭和49年卒）＞

●日本に数人しかいない、サーランギ奏者として仙台的プラネタリウムの中で星空を見ながら演奏します。35本の共鳴弦が鳴り響き、星が美しく輝くと思っています。

＜奈良隆寛（昭和49年卒）＞

●勤続39年の製薬企業を定年退職し、小さな製薬会社で管理薬剤師として再就職し早くも一年数か月、もう少し年金生活とは距離をおいておこうかな。現

役バリバリとはちょっと違うけれど、フルタイム勤務は生活リズムを整えるのに非常に良い。平日に有休をしっかりと取って国内旅行を楽しみながら仕事しています。

＜千葉昌人（昭和51年卒）＞

●獨協通信98号を拝読し懐かしく思いました。特に、吉田卓司先生の記事に掲載されていた奈良修学旅行時の先生方のお写真、私もよく知っている先生方の若かりし頃の写真で忘れかけていた記憶が蘇ります。吉田先生、栗原先生（物理？）、古川先生（高1の主幹）、増田先生、神田先生。太田朝博先生も体育でお世話になりました。塩瀬治先生は同期です。今後も益々、楽しい会報を楽しみにしております。

＜高橋成典（昭和52年卒）＞

●今は大阪の桃山学院大学で国際関係論（紛争解決、平和構築、国際協力など）を教えています。3月に合同出版から、『ぼくはロヒンギャ難民。一差別され、迫害され、故郷を追われた人びと』を出版しました。中高生向けのシリーズですので、現役のみなさんに読んでもらえれば幸いです。

＜小峰茂嗣（平成元年卒）＞

●入区して25年目になります。長女は商業コースの高校を卒業して社会人1年目。次女は農産高校の2年生。長男は中学1年生になりました。

＜藤島一郎（平成7年卒）＞

●目下、個人事業主として仕事に励んでいます。仕事は英語を主とした教育関連です。母校獨協の益々のご発展をお祈りいたします。

＜鈴木俊弘（平成9年卒）＞

●演劇部で培ってきた魂が20年経った今、燃えています。舞台「ようこそ、ミナト先生」そして小説「オネエ産婦人科」の医療監修を努めました。以前は病院で「君ほど医者らしくない人はいないよ」と罵られましたが、今はいろんな現場で「えっ！？あなた医者なの！？」と驚かれることが増えました。どちらが正解なのか、分かりません。

＜井関 隼（平成14年卒）＞

●2～3年ごとに転勤があり、現在は静岡県は浜松に住んでいます。居住するのは5つ目の都市にはなりませんが、多くの土地の文化や食を楽しめるのは非常に有意義に感じます。子も3歳になり、可愛い盛りです。一緒にキャンプに行くのが最近のブーム。いつか獨協の旧友とも行きたいです。

＜村上 計（平成18年卒）＞

寄付金納入者一覧 (「98号」以降)

(敬称略)

竹内 正和 (昭和 18)	30,000	木田 吉成 (昭和 40)	10,000	遠山 洋一 (昭和 53)	10,000
石井 進 (昭和 20)	20,000	(匿名) (昭和 41)	10,000	菅 正剛 (昭和 53)	20,000
小林 正樹 (昭和 20)	10,000	大隅 敏彦 (昭和 41)	10,000	(匿名) (昭和 53)	(匿額)
名久井 隆司 (昭和 20)	50,000	宮崎 輝雄 (昭和 42)	10,000	橋口 英生 (昭和 53)	10,000
鹿島 正安 (昭和 20)	10,000	石井 一平 (昭和 42)	10,000	西原 由恭 (昭和 53)	(匿額)
本田 光芳 (昭和 26)	10,000	引間 規夫 (昭和 42)	10,000	大谷 文敏 (昭和 54)	10,000
桑嶋 陽一 (昭和 29)	10,000	浅野 一 (昭和 42)	(匿額)	岩永 聡 (昭和 54)	10,000
土生 裕 (昭和 30)	10,000	井原 泰樹 (昭和 43)	30,000	(匿名) (昭和 54)	10,000
片田 基義 (昭和 30)	10,000	東平 進 (昭和 43)	10,000	野村 芳樹 (昭和 54)	10,000
(匿名) (昭和 31)	10,000	大津 博司 (昭和 43)	10,000	菅谷 敦人 (昭和 58)	10,000
青野 和雄 (昭和 32)	10,000	(匿名) (昭和 43)	5,000	宮本 昌幸 (昭和 59)	10,000
小川 秀明 (昭和 32)	10,000	長山 和夫 (昭和 44)	10,000	吉松 栄彦 (昭和 59)	10,000
(匿名) (昭和 34)	(匿額)	秋元 寿明 (昭和 45)	10,000	山崎 博之 (昭和 59)	10,000
吉本 明康 (昭和 34)	10,000	西原 潔 (昭和 46)	10,000	矢野 剛司 (昭和 62)	10,000
福井 晃 (昭和 34)	(匿額)	小川 守一 (昭和 46)	10,000	三井 義久 (昭和 63)	30,000
大沢 悠里 (昭和 34)	(匿額)	引場 昭仁 (昭和 46)	10,000	塩屋 雄史 (平成 5)	10,000
西川 賢二 (昭和 34)	10,000	森本 幸秀 (昭和 47)	20,000	國松 常芳 (平成 10)	60,000
金子 宏 (昭和 34)	10,000	木原 正義 (昭和 47)	5,000	星野 剛 (平成 10)	20,000
高橋 龍二 (昭和 34)	10,000	(匿名) (昭和 47)	10,000	河手 敬彦 (平成 12)	10,000
沢辺 滯彦 (昭和 34)	20,000	松本 利也 (昭和 47)	10,000	井関 隼 (平成 14)	10,000
有我 昭蔵 (昭和 34)	10,000	(匿名) (昭和 48)	10,000	高嶋 正利 (平成 19)	10,000
佐藤 八郎 (昭和 35)	50,000	(匿名) (昭和 48)	(匿額)	大西 弘晃 (平成 30)	10,000
梅木 建昭 (昭和 35)	10,000	神田 良介 (昭和 49)	10,000	向井 佳 (平成 31)	10,000
千田 正二 (昭和 35)	20,000	奈良 隆寛 (昭和 49)	10,000	田上 源 (令和 3)	10,000
鈴木 荘太郎 (昭和 35)	(匿額)	池内 伸一郎 (昭和 49)	10,000	川口 諒太 (令和 4)	10,000
里見 治 (昭和 35)	50,000	木村 宗孝 (昭和 50)	10,000	渡部 真徳 (令和 4)	10,000
飯塚 雅生 (昭和 37)	10,000	吉津 徹 (昭和 50)	10,000	谷川 弘一 (令和 4)	10,000
益井 邦夫 (昭和 37)	10,000	(匿名) (昭和 50)	(匿額)	古谷 天聖 (令和 4)	10,000
橋本 設夫 (昭和 37)	20,000	鈴木 敏彦 (昭和 52)	10,000	独協放送部 OB 会 橋本正樹	30,000
田島 博山 (昭和 38)	10,000	伊藤 英一 (昭和 52)	10,000		

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくごお願い申し上げます。

獨協同窓会は任意団体のため、寄付金控除制度の対象になっていません。

確定申告での所得控除や税額控除は受けられませんので、予めご了承ください。

独協通信 100号 (令和5年6月初旬発行) の原稿募集

締切日：令和5年3月末

同窓生の皆様から、投稿をお待ちしています。

- ① ドイツ語圏における体験など (800字)
- ② クラス会、OB会、など集いの報告 (200字)
- ③ 獨協の思い出 (800字)
- ④ 近況報告 (200字)

*頂戴しました原稿への加筆・修正、一部削除などをご承知ください。

*独協通信は同窓会ホームページにも掲載されますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

郵送の場合 ➡ 〒112-0014 文京区関口 3-8-1 獨協同窓会

メール ➡ info@dokkyo-mejiro.com

電話 ➡ 03-3946-6352 (毎週月・木 13:00 ~ 16:00)

平成の卒業生を募集しています

同窓会の運営に参加いただける方を募集しています。

独協通信の編集、獨協祭での展示や同窓会運営のアイデアなど、平成の風を欲しています。

年に数回の会議に参加可能な方、ご連絡をお待ちしています。

独協通信OB会紹介コーナーについて

独協通信 92号から新たにOB会紹介コーナーを設けまし

たので、振ってご投稿ください。

メール ➡ info@dokkyo-mejiro.com 電話 ➡ 03-3946-6352 (毎週月・木 13:00 ~ 16:00)

グッズ紹介

- ポロシャツ : 2019年新作がデビューしました(色=インディゴorホワイト)。S・M・L・XL・XXL ございます。2018年モデルは在庫限り(M・Lが少々)です。
- 三色ボールペン : 2019年獨協祭でデビューしました。
- ピンバッチ&カフスボタン : 2018年デビューです。
- 野球部応援グッズ : Tシャツ&キャップ 2018年デビューです。



ご希望の方は幹事長までご連絡をお願いします
 電話 090-9310-1553 h-okiyam@fk9.so-net.ne.jp
 沖山秀司(昭和49年卒)

クラス会・OB会等補助金のお知らせ

同窓会では1開催につき1万円の補助金を助成しております。(ホームページからも申請出来ます。)

- 対象となる会合: クラス会、年度クラス合同会、地域支部会、OB会、その他(学年を越えたドイツ語クラス会等)。参加人数は5人以上。
- 回数: いずれも年1回。
- 申請: 開催責任者が事務局に申請して下さい。
- 添付書類: 案内状等があるときは添付して下さい。
- 報告: 開催報告を「独協通信」へ是非寄稿して下さい。

ご連絡をお待ちしております。

物故者名簿(『独協通信』98号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日	昭和28年	西宮 栄三	2021	昭和40年	大平 幹雄	2022/1/24
			昭和28年	橋本 幸雄	2021/5/25	昭和40年	菅谷 宏司	2022/1/23
昭和12年	中島 一	2022/3/29	昭和29年	板村 徳太郎	2017/1/6	昭和41年	斎藤 忠行	2020/11/25
昭和17年	宅間 雅夫	2022/3/31	昭和29年	鎌田 忠宏	2022/2/21	昭和41年	長田 清彦	2021/9/23
昭和18年	風見 知雄	2017/9	昭和29年	小島 敏昌	2022/4/16	昭和43年	小池 克紀	2019
昭和18年	森 敏	2005/11/17	昭和29年	早川 雅也	2021/7/19	昭和43年	清水 敏朗	2022/1/6
昭和19年	守田 四郎		昭和30年	中島 秀温	2012/10/2	昭和44年	草野 文雄	2021/11/18
昭和20年	金森 一郎	2007/1/19	昭和30年	宮井 康行	2021/11/30	昭和46年	山崎 博昭	2021/3/30
昭和20年	石田 義雄	2021/1/25	昭和31年	河合 清	2018/1/24	昭和49年	呉 承燦	2022/1/23
昭和21年	横井 弘幸	2021	昭和31年	鮫島 慶次	2020/8	昭和52年	井上 正美	2022/4
昭和22年	鈴木 伸	2022/7/20	昭和32年	佐武 一英	2021/9/8	昭和54年	白木 豊	2022/7/16
昭和24年	小黒 良郎		昭和35年	千田 正二	2022/4/13	昭和55年	田中 博	2022/12/9
昭和24年	中條 嶺嗣	2021/11/22	昭和36年	石田 宏一	2022/1/11	昭和56年	小川 浩行	2021/11
昭和25年	宇野 庫太	2022/2/13	昭和38年	原 吉雄	2022/4/19	平成13年	木村 徳輝	2020/4
昭和27年	森 孝行	2022/5/31	昭和39年	柳原 克忠	2022/9/12	平成29年	中村 哲也	2022/9/6

～甲状腺を病む方々のために～

ITO HOSPITAL 伊藤病院

院長 伊藤公一 (昭和51年卒)

TEL. 03-3402-7411 東京都渋谷区神宮前4-3-6 www.ito-hospital.jp

医療法人社団甲仁会
理事長 伊藤公一

NAGOYA 名古屋甲状腺診療所

TEL. 052-252-7305
名古屋市中区大須4-14-59
www.kojin-kai.jp/nagoya/

SAPPORO さっぽろ甲状腺診療所

TEL. 011-688-6440
札幌市中央区大通西15丁目1-10 ITOメディカルビル札幌5F
www.kojin-kai.jp/sapporo/



医療法人社団

野村会 昭和の杜病院

東京都昭島市宮沢町 522-2

理事長 野村芳樹 (昭和54年卒)

医療療養型 180床・透析ベッド 36床
入院 (一般内科・透析)・外来透析・各種健康診断随時ご相談ください

TEL 042-500-2611 FAX 042-500-2612

SASAKI LAW OFFICE 佐々木綜合法律事務所

東京都千代田区神田須田町1丁目26番 芝信神田ビル10階
TEL 03-3255-0091 FAX 03-3255-0094

相続・不動産・企業法務など
さまざまなお悩みを承っております。



お気軽に
お問合せ
ください

東京弁護士会所属
弁護士 佐々木 広行 (昭和61年卒)
[平成28年度 東京弁護士会副会長]

獨協ドクターの職場でお役に立てるかもしれない



イラストで飾ったバルセロナの小児病院
内装仕上げとカーラッピング技術の融合

写真提供：日本HP 株式会社



有功社 一貿易株式会社
YUUKOHSHA CITO TRADING CO., LTD.

昭和53年卒
代表取締役 谷口 有三



ベア AGA クリニック
BEA AGA CLINIC

院長 清水 崇裕 [平成17年卒]
薄毛治療ならベア AGA クリニック

◆薄毛でお悩みの獨協卒業生の皆様、お気軽にご連絡ください

〒160-0022 東京都新宿区
新宿3丁目14-22 小川ビル4階

獨協割あり・ご予約はこちらから▶

TEL: 03-5925-8241 *木・祝 休診



獨協同窓会支部会の立ち上げ

地域別の獨協同窓会支部会
(北海道、東北、九州、海外等の単位で)を立ち上げませんか。
ご賛同いただける方は同窓会事務局までご連絡ください。
メール ▶ info@dokkyo-mejuro.com
電話 ▶ 03-3946-6352 (毎週月・木 13:00 ~ 16:00)

編集後記

本年度同窓会総会、そして獨協祭は、3年ぶりに例年並みの開催が実現しました。これからの同窓会各行事は通常通りに再開する予定です。

とは言え、新型コロナウイルス感染症は無くなる訳ではありません。引き続き警戒し、感染症対策を怠らないよう、頑張りましょう。

獨協祭の同窓会展示室前に掲げたスローガンは、「何処に居ても2時間毎の手指衛生」でした。これを見た方々は、入室されなくても入口に置かれたアルコールを使用されていました。

今号では前回の98通信をご覧頂いた感想が寄せられました。一層喜んで頂ける内容を続けようと、我々一同励みになりました。前号から始めました企画「母校で活躍する同窓生」では、野球部の育成に力を注がれた淀縄さんの登場です。天野貞祐先生が記された「野球哲学」も紹介されています。是非ご一読ください。

10月22日北長野は戸隠を訪れました。早朝の風が無い時間に鏡池を写しました。険しい戸隠山とは対象的な池が創り出すコントラストは、人を飽きさせない魅力が有りました。
沖山

